

## B 比爪館跡と周辺の文化

### 北の拠点・比爪館

#### B① 比爪館の誕生

岩手県、青森県及び秋田県の北東北 3 県は、互いに隣接し古くから様々な交流・連携の歴史がある。北東北の地方豪族であった安倍氏と清原氏の系譜を継ぐ藤原清衡は、朝廷から北東北に対する軍事・交易の広範な権限を独占的に与えられた。さらに、これらを権力基盤にしながらか中央の権門や院近臣との結びつきを強め、奥羽両国全体へ公的権限の拡大を図りながら、奥州における政治・行政上の拠点平泉が形成されることとなった。

志波郡は、岩手郡とともに北東北の「奥六郡」（胆沢郡・江刺郡・和賀郡・稗貫郡・志波郡・岩手郡）と呼ばれた地域内の北部に位置する。平泉政権は、その一門である樋爪氏を志波郡の比爪に配置した。平泉藤原氏の時代、志波郡は樋爪氏の支配下にあった。比爪館跡は、樋爪氏の住居・政務の場であり、鎌倉時代の記録である『吾妻鏡』に記録された居館の考古学的遺跡である。

樋爪氏の勢力圏は、志波郡・岩手郡が本領地と考えられている。奥六郡以北の地域については、経済圏としての関与は想定されるが、直轄地として支配していたかどうかは現時点では定かではなく、平泉藤原氏の直轄支配の可能性も指摘されている。

近世の北東北は、豊臣政権による奥羽仕置によって盛岡藩・弘前藩・秋田藩の藩領が確定され、それぞれ近世大名によって分割統治されていた。平泉政権は、この広大な北東北において、樋爪氏ただ一人を分割統治者として志波郡に配置した。奥六郡内で分割支配が認められたのは樋爪氏だけである。清原氏は、分割相続から生じた利害関係の対立によって後三年合戦を招来させた。平泉藤原氏は分割相続による悪弊を防止するために、これを教訓に取って分割統治を選択しなかったと考えられるが、樋爪氏の志波郡配置は極めて異例といわざるを得ない。

「比爪館跡」が重要な遺跡として注目されるのは、当時の平泉政権や樋爪氏による支配の実態や社会・文化を解明する手掛かりを与えてくれるからである。近年の比爪館跡や周縁遺跡の発掘調査などによって、都市平泉と類似する都市的な構造などが部分的ながらも解明されつつある。しかし、樋爪氏の具体的な統治権限や勢力範囲、平泉政権における比爪館の位置付けなどについては十分解明されていないのが現状である。

樋爪氏が志波郡に配置されたのは、これまで郡内から産出される砂金や馬などを統括するためと考えられていた。しかし、平泉の東に位置する気仙郡は砂金の産地として知られ、糠部地方は、古くから京でも広く知られる国内屈指の馬産地であり、「糠部の駿馬」として

『吾妻鏡』に記されている。樋爪氏がこの地に配置されたのは、これだけの理由だろうか。

樋爪氏は、北方世界に君臨する平泉政権の下で、比爪館を拠点に本州北部の境界領域や海峡を隔てた北方の地域との活発な交易活動を基盤としながら、志波郡・岩手郡の政治・経済・文化の中枢として、平泉政権を支えていたことは事実であろう。今後、発掘調査によって比爪館周辺の都市的な空間がさらに広がる可能性がある。その調査成果をもとにした学際的な研究の進展によって、平泉政権の権力構造や樋爪氏の分割統治の実態など、比爪館の実像が徐々にみえてこよう。

平泉は、12世紀の我が国において、京都や博多とともに数少ない中世都市として発展した。仏教の浄土思想に基づいた現世における仏国土（浄土）の空間的表現を目指したとされる都市平泉の理念は、樋爪氏の居館や宗教建築など、都市整備の技術、意匠などにも大きな影響を与えたと考えられる。比爪には、この理念をもとに計画、整備された多くの遺構や遺跡が残されており、その威容を今に伝えている。

比爪館の存在を考えると、安倍氏や清原氏によって統治されていたこの地方の社会経済や文化の構造が、樋爪氏の100年にも満たない統治下でどのように変化し、どのような形で鎌倉幕府に引き継がれていったのかを複眼的な視座で見極めていく必要がある。

平泉藤原氏及び樋爪氏時代の武士は、地頭の入替えによって歴史の表舞台から一步後退したが、新たな地頭などの現地代官などとして在地に勢力を温存させた者は少なくないと考えられる。室町時代から戦国時代を経て近世初期に登場する志波郡の豪族や豪農層は、平泉藤原氏・樋爪氏時代の武士の系譜を引く一族であったと考えられ、地域の歴史文化を牽引していった彼らの事績を紡いでいくことが地域の歴史の掘り起こしでもある。

比爪館の造営時期は定かではないが、早くても12世紀初頭と推測されており、12世紀後期に樋爪氏の滅亡とともに焼失した。

比爪は、平泉の歴史や文化と密接なつながりを持ち、平泉とともに発展し、平泉と命運をともにし、樋爪氏の零落とともに地方拠点としての役割を終えた。比爪は、平泉の都市理念が奥六郡内で展開された数少ない例として貴重であり、「平泉を支えた北の拠点・比爪」と評されるにふさわしい歴史的な特性を備えた地といえる。